



日常生活に生かせる外部専門家からの助言



学校では、自立活動の充実や教員の専門性向上を目的に理学療法士(PT)、言語聴覚士(ST)、作業療法士(OT)の方に来校していただき、助言を頂きました。そのうちの一部をご紹介します。

○車いすでの良い姿勢

お尻は座面の奥の方で座りましょう。動いているうちに、身体が座面の前方へずれてくることがあります。腰ベルトはしっかり閉めましょう。空いている隙間はタオルなどで埋めましょう。

○姿勢変換をしましょう！

私たちが同じ姿勢で一日過ごすとは疲れますよね。車いすの子どもたちの中にはつらくても自分で姿勢を変えられない子どももいます。身体を伸ばしたり、車いすから降りるなど姿勢を変える時間をつくりましょう。

○車いすのメンテナンスをしましょう！

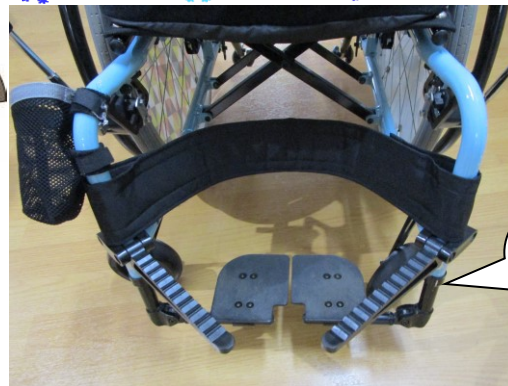
成長や緊張の状態により、車いすのベルトの位置や背もたれの高さが変わってきます。また緊張が強いお子さんは、車いすの一部に力がかかり、車いすのシートも劣化しやすくなります。車いすの状態を定期的に確認しましょう。

○視覚・聴覚を使った活動を通して興味関心の拡大を！

口の中に手を入れたり、叩いたり…自分の身体に向いている興味関心を、視覚や聴覚を使った活動をとおして少しずつ外に広げることで、手を使った活動につながります。音の鳴るおもちゃや光るおもちゃなど変化がわかりやすいおもちゃやかわり遊びでやりとりを楽しむことも効果的です。



紹介します



使用しないときは
折りたたみ可。

生徒の車椅子を紹介します。

車椅子の足場の部分にカバン置きが付いており、自分でカバンを置いて自走し、教室へ向かっています。

また、自分の部屋に手すりを付けてもらった生徒は、ベッドから車いすへの移動がスムーズになったようです。

このように、適切な器具や補助具を使うと、自分でできることが増えていきますね。

冬季休業中は、車椅子の持ち帰りをお願いします。

長期休みを利用し、カバー等の洗濯、ベルトやブレーキ、タイヤ、部品等の点検をお願いします。

